

- 十津川村では高度経済成長期の電力不足を補うため、複数の水力発電ダムが建設され、現在ではカーボンニュートラルの観点からより一層の水力発電利活用を推進する機運が高まっています。その反面、河川を堰き止めた事により発生する堆積土砂やダムの濁水長期化など、新たな問題が顕在化しています。
- そこで、ダム及び河川の正常な姿を取り戻し、ダム設置自治体としてダムと共存できる方策を考えていくことを目的として、11月26日（火）に十津川村主催で「ダム・河川の機能と環境を考えるシンポジウム」が開催され、河川部からも常山河川部長が第2部のパネルディスカッションのパネラーとして参加しました。

開催日：令和6年11月26日（火）
 実施場所：十津川村役場 住民ホール
 参加者：約150名
 主催：十津川村
 内容：○ 基調講演「自立する十津川－歴史から未来へ－」
 NPO法人日本水フォーラム理事
 竹村公太郎
 ○ パネルディスカッション

主催者挨拶



小山手 修造
十津川村長

第1部 基調講演 「自立する十津川－歴史から未来へ－」



竹村 公太郎
NPO法人 日本
水フォーラム理事

- 十津川村の安全・自立・永続のために十津川村の資産である無限の水力エネルギーを有効活用すべき。
- 二津野ダムを再開発することにより、十津川村の抱える諸問題を解決できる。
- 水力発電ダムを活用することで十津川村は永続的に自立できる。

第2部 パネルディスカッション

【コーディネーター】



角 哲也
京都大学防災研究所
水資源環境研究
センター 特定教授

【パネリスト】



小山手 修造
十津川村長



竹村 公太郎
NPO法人日本
水フォーラム理事



常山 修治
近畿地方整備局
河川部長



安井 広之
奈良県 県土
マネジメント部長



田畑 宏司
電源開発株式会社
土木建築部長



パネルディスカッションでの意見

- ・ ダムに溜まる土砂は下流に流す事を基本だと考える。そのための仕組みづくりをみんなで知恵を出し合う必要がある。大きな話なので、国には大きく期待したいところ。今日のシンポジウムをきっかけに堆積土砂を資源として活用できるような仕組みができればと思う。
- ・ 十津川にある風屋ダムや二津野ダムの再生事業は、「流域総合水管理」を推進させると同時に、「熊野川流域の安全」「自立する永続エネルギー」「流域の環境」につながるものと認識している。
- ・ 世界的には「Sand War」と言われるように、土砂の争奪戦が始まっている。紀伊半島、十津川村はその土砂資源の生産源であり、本日のパネラーの関係者の皆さんの英知を結集して、有効活用に向けた道を開きたい